

# 2011年度 国際金融論 概要

国際学部 岩村 英之

2011年5月6日

## 1 講義の概要・目的

国際金融において最も重要な変数のひとつは為替レートです。本講義の前半では、「為替レートとは何か」といった基本的な問いからはじめ、

- 為替レートはなぜ動くのか
- 為替レートの変動は経済にどのような影響を及ぼすのか

といった疑問に対して、経済学的な視点からの解説を行います<sup>1</sup>。加えて、これらの疑問を考えながら、国際金融現象を考察するときの枠組（「理論」あるいは「モデル」と呼ばれる）を構築していきます。講義の後半では、前半で構築した分析枠組を用いて、

- 為替レート制度の相違は経済パフォーマンスにどう影響するのか
- 実際に各国はどのような為替レート制度を採用し、どのような経験を積んできたのか（国際通貨制度の歴史）

といった問いを考察します。最後に、時間があれば、国際経済と国際政治との相互作用に注目した政治経済学的な視点を導入し、通常の経済分析では扱わない為替レート政策をめぐる国内・国際政治についても議論する予定です。

加えて、本講義は経済学的な考え方を習得してもらうことも目標とします。したがって、「入門経済学」的な役割を果たすことも意図しています。実際、次項で説明するように、経済学に関する特段の知識はいっさい前提としません。

なお、本講義は「知る」講義ではなく、「わかる」「理解する」講義を目指しています。断片的な事実・命題を提示してひたすら暗記力を問うものでもなく、公式を記憶させてひたすら応用問題を解かせるものでもありません。むしろ、その命題や公式がどのようにして導出されたのかを、最初の一步から端折らずに解説していくタイプの講義になります。これは、皆さんが大学卒業後に求められることは、これまで経験しなかったような問題に対処するために新たに公式を生み出すことだからです。誰かが考えた結果ではなく、どう考えたのかを見ておくことが重要なのです。

## 2 前提科目（ミクロ/マクロ経済学・数学について）

経済学の知識については、特に前提しません。「経済学入門」や「経済原論」を履修している必要はありません。そこで教えられている内容も含めて、この講義で必要なことは全て講義の中で説明します。

数学（というより数式操作）については極力用いないようにします。しかし、複雑な論理を言葉だけで展開するのはかえって理解を妨げるため、簡単な数式操作（文字式の計算）やグラフは全体の1/3程度で用いる予定です。ただし、それらも登場する度に初歩レベルから説明します。

<sup>1</sup>経済学以外の視点から為替レートにアプローチする研究者も存在しています。

国際経済に対するニュース報道レベルの知識についても特に前提しませんが、そもそも全く興味のない人はこの講義を履修しないでしょうから、ある程度は知っている（興味がある）ものとして進めていきます。

### 3 講義のウェブページ

私のウェブサイトはこの講義のページを作成しています。講義のハンドアウトは全てここにアップしていきます。また、受講者からの質問等に基づいて、追加の情報もアップしていきます。中間・期末試験の情報等も掲載しますので、時々見るようにしてください。2008・2009年度のこの講義の様子（試験問題を含む）を知ることができます。

<http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/>

### 4 教科書

教科書は特に用いません。ハンドアウトを配布します。ただし、講義内容自体は、次項の参考文献 [1][2] に準拠しています。購入したい人は生協で注文してください。

### 5 参考書

- [1] P. クルーグマン, M. オブズフェルド (山本章子・訳) 『クルーグマンの国際経済学 下 金融論』, ピアソン桐原, 2010 年。

下記 [2] の後半部分の邦訳です。教科書には指定していません (= 購入を強制しません) が、ほぼこの本の内容に従って講義を進めていきます。講義では、本書で提示されている、為替レートを含めた国際経済の動きを記述する理論である「DD-AA モデル」を、その構築から適用まで説明します。本書の上巻は、国際貿易論を扱った前半部分の翻訳になっています。

なお、本書は原著第 8 版の翻訳ですが、原著は近々第 9 版が出るようです。

- [2] P. Krugman, M. Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy, the 8th edition*, Addison Wesley, 2008.

[1] の原著です。間違いなく、世界でもっともよく用いられている国際経済学のテキストです。ほぼ 2-3 年に 1 回のペースで改訂されています。5 月下旬に第 9 版が出るようです。

- [3] 岩田規久男, 『国際金融入門 新版』(岩波新書 1196), 岩波書店, 2009 年。

新書なので、経済学自体の初心者にもわかるよう丁寧に(「やさしく」ではない。前提知識のない人にも理解可能なように、端折らず順を追ってということ)書かれています。制度・理論・歴史のどれも十分な解説が成されていて、新書としてはたいへん贅沢な内容です。購入をお勧めします。同じ著者の『金融入門 新版』(岩波新書 635)を併せて読むと理解が深まります。

- [4] 高木信二, 『入門 国際金融』(第 4 版), 東洋経済新報社, 2011 年。

- [5] 深尾光洋, 『国際金融論講義』, 日本経済新聞社, 2010 年。

[6] 藤原秀夫，小川英治，地主敏樹，『国際金融』（有斐閣アルマシリーズ），有斐閣，2001年．

[4][5][6] は，ミクロ・マクロ経済学と数学をある程度勉強した人を対象としたテキストです．私の講義に物足りなさを感じた場合，是非目を通してみてください．また，私の説明がしっかりこない場合にも，これらの本の同様の箇所を参照するとよいでしょう．説明の仕方は複数あるので，自分にあったものを見つけることもうまい勉強方法のひとつです．

[7] N. グレゴリー・マンキュー（足立他・訳），『マンキューマクロ経済学 第2版 I 入門篇』，『マンキューマクロ経済学 第2版 II 応用篇』，東洋経済新報社，2003年．

国際金融論の大部分は，マクロ経済学を外国との貿易・金融取引が存在するケースに拡張したものです．したがって，マクロ経済学の勉強はそのまま国際金融論へとつながります（実際，本講義の半分くらいはマクロ経済学の解説になります）．本書は，そのマクロ経済学の世界標準のテキストです．経済学部で3,4年生向けですが，記述が丁寧なのでじっくり取り組めば6-7割は理解できるでしょう．ちなみに，原著 *Macroeconomics* は第7版が出ています．

この4月に原著最新版の翻訳が出ました（上巻だけですが）．

[8] 飯田敬輔，『国際政治経済』，東京大学出版会，2007年．

本講義では，時間があれば為替レート政策の政治的側面についても扱う予定です．本書は，国際金融の政治経済学的側面を扱った学部レベルのテキストとして参考になるでしょう．

[9] 飯田泰之，『経済学的思考の技術』，ダイヤモンド社，2003年．

経済学の特徴的な考え方を，経済学を学んだことのない人を対象に解説した本です．

[10] 柳川範之，『独学という道もある』（ちくまプリマー新書 102），筑摩書房，2008年．

勉強とは基本的に独学です．文字通り全てを講義に期待するのは不可能です．また，皆さんが社会に出た後は，必要な知識は独学で獲得するしかないでしょう（大学に入り直す時間的・金銭的余裕はまずないでしょう）．その意味で，独学せざるを得なかった著者の体験は参考になるはずですが．

## 6 成績評価

- 中間試験と期末試験の点数をもとに最終成績をつけます。大まかに、「中間試験の得点 $\times 0.3$ +期末試験の得点 $\times 0.7$ 」と考えていますが、受講生の得点分布も考慮して相対評価の要素も導入します。
- 中間試験は2011年6月21日に、講義の最初の60分を使って実施します。中間試験を欠席した場合、理由によらず中間試験の得点は0点となります。いかなる代替措置も講じません。しかし、期末試験を受験する資格を失うわけではなく、期末試験の得点次第では単位取得も可能です。ただし、これまで中間試験を受験せずに単位を取得した受講者はいません。
- 出席は一切考慮しません。したがって出席もとりません。その場に物理的に存在しているだけでプラスになることはありません。
- 小テストを何度か実施するかもしれませんが、原則として成績決定の際には考慮しません。皆さんの理解度を把握して後の講義に活かすことと、皆さん自身が自分の理解をチェックすることが目的です。
- 中間・期末試験では、前日に丸暗記して当日一気に書き出すような問題は出題しません。暗記力を問うのではなく、「考え方(理論)」をどれだけ理解しているか、それを講義で扱ったものとは別の問題にうまく適用できるかを問います。暗記中心の勉強方法で多くの単位を取得してきた人には、スリリングな経験となるでしょう。
- 本講義は積上型です。したがって、前回講義の内容を全く理解せずに来た場合、当日の講義内容を理解するのはほとんど不可能でしょう。しっかり復習しておくことと、欠席した場合にはウェブサイトからハンドアウトを入手し、少なくとも5割程度は理解して来ることが重要です。

## 7 オフィス・アワー等

- 毎週金曜日 15:00-15:50 @オフィス(8号館4階8413) この時間に都合がつかない場合は、別の時間を設定します。
- 初歩的な質問から大歓迎です。参考までに、昨年度の来室者は毎回1-2名でした。混雑することはありませんので、気軽にどうぞ。
- Eメールでも質問・相談受け付けます。iwamura@k.meijigakuin.ac.jp